

自殖系統を活用したイチゴの新品種育成

○実施期間：令和6年～10年度

○担当部署：野菜部

○区分：地域密着型研究・県単

○研究内容

現在、県内イチゴ産地の品種は、県（当センター）で育成したイチゴ促成品種「濃姫」、「美濃娘」、「華かがり」で県内の栽培面積の8割以上を占めており、「岐阜県ブランド」を築いています。

一方で、県育成品種には、芽が多く栽培管理に労力を要する、果皮に手ズレが生じやすい、高温時に果実が柔らかくなりやすいなどの問題が指摘されています。また、近年の温暖化の影響により、花芽分化が不安定になる他、高温時に品質が低下するなど、収量・収益の減少に繋がっており、迅速な新品種育成が求められています。

そこで、本研究では、新たな品種育成の手法として、県育成品種の自殖系統を育成し、交配親として活用することで、選抜育成の効率化を図り、県育成品種の有用形質を受け継いだ、栽培しやすく良食味で果実品質に優れる新品種、中間母本の育成を目指します。



岐阜県育成品種「濃姫」（上段左）、「美濃娘」（上段右）
「華かがり」（下段）